

Contents

- 【全体動向】アメリカ産牛肉の衛生検疫に関する韓米技術協議の中断を求める記者会見
- 【韓国生協連合会】地域生協の活動プロジェクト評価会・第4回生協フォーラム・第7回通常総代会開催
- 【韓国女性民友会生協】第8回通常総代会開催・ラララ冬休み子ども学校開催
- 【生協全国連合会】第20回通常総代会開催・槌田劭教授招聘講演会
- 【ハンサルリム】20周年記念資料集発刊・第20回通常総代会開催

【全体動向】

アメリカ産牛肉の衛生検疫に関する韓米技術協議の中断を求める記者会見を開きました

韓米 FTA 阻止汎国民運動本部は2月7日、国立獣医学検疫院の前で記者会見を開き、現在進行中の韓米間アメリカ産牛肉の衛生検疫に関する韓米技術協議を中断するように求めました。この間アメリカ産の牛肉は去年の輸入再開以来3回も検疫過程で危険部位が見つかり、輸入手続きが中断された経緯があります。しかし、アメリカ政府は「骨の付いた肉塊は骨ではない」と主張しながら、韓国政府の衛生検疫の手続きをより合理的に改善してくれることを要求しています。同運動本部は、今回の技術協議が実際にはアメリカ産牛肉の輸入条件を緩和するための措置に過ぎないと指摘し、アメリカの要求を受容するこの協議を中断するよう強く求めました。

<http://www.icoop.or.kr/v2/announce/view.php?code=announce&homepage=003&page=1&number=822&keyfield=&key=&no=201&fid=205&thread=A>

【韓国生協連合会 <http://www.icoop.or.kr>】

地域生協の活動プロジェクト評価会が開催されました

韓国生協連合会は2005年から毎年「地域生協の活動プロジェクト事業」を公募し支援してきましたが、2006年の活動プロジェクト事業評価会が2月1日、富川連合会事務室でありました。評価会にはプロジェクト事業に選定された11生協の担当者とプロジェクト評価団が参加して各プロジェクトの評価と今後の課題・プロジェクト推進方向について討論を行いました。2006年実施されたプロジェクト活動は次のようです。

1. 青空市場を利用した生消交流の活性化事業：順天生協・順天YMCA生協
2. 土曜休みを利用した子ども教室の運営：陽川生協・九老生協・牙山YMCA生協
3. 学校給食に関する地域での教育活動：富川生協
4. 団体向けの生協商品の試食・広報活動：金海生協
5. 組合員版の生協商品情報紙の制作：高陽一山生協
6. 地域の欠食児童への「愛のお弁当づくり」活動：徳陽ヘッサル生協
7. 女性用綿ナプキンの普及活動：木浦生協
8. 子ども食品安全活動と料理教室運営：海南生協

評価会ではプロジェクト事業によって推進主体の活動力や活動内容は堅実に定着しつつあることが評価され、これからもより斬新なアイデアで地域コミュニティを支える生協の活動について討論がありました。

<http://www.icoop.or.kr/v2/announce/view.php?code=announce&homepage=003&page=1&number=820&keyfield=&key=&no=200&fid=204&thread=A>

韓国生協研究所は第4回フォーラムを開きました

2月13日、韓国生協研究所・韓国生協連合会学校給食委員会は、ソウル女性プラザ NGO センターにて「親環境ウリ農産物学校給食の事例と今後の課題」というテーマで第4回フォーラムを開き、約70名が参加しました。韓国生協連合会は、2005年から「1地域生協1学校給食運動」を活動方針にして、各地域で親環境国内産農産物を利用した学校給食の実施に取り組んできました。その結果現在、全国で15の会員生協が26学校、21,750名の小・中学生の給食事業に関わっています。すなわち、生協の生産者が栽培した親環境農産物の給食が提供されているわけです。しかし学校給食用の原材料の納品には学校ごとに違う規格と細かい基準があり、原材料の納品、物流、価格設定などには様々な課題や悩みを抱えています。今回のフォーラムでは、韓国生協連合会の事例と自治体が積極的に協力している全羅南道学校給食支援事業の事例が発表され、(社)ハンサルリム、農林部、農協中央会、栄養士からそれぞれコメントがありました。

又、同日の午前には、「生協アカデミ修了生の継続講座」として「社会的経済と生協」というテーマの講座がありました。講師は李ソンス氏(自活情報センター事務局長)。ヨーロッパでの社会的経済の紹介と、韓国社会での可能性、特に生協が担う役割などについての講義と質疑応答で進行されました。

<http://www.icoop.or.kr/v2/announce/view.php?code=announce&homepage=003&page=1&number=840&keyfield=&key=&no=203&fid=207&thread=A>

「第7回通常総代会」が開かれます

韓国生協連合会は2月28日、ソウル女性プラザにて「第7回通常総代会」を開きます。2006年度の決算は、icoopグループ全体(韓国生協連合会、(社)韓国生協連帯、相助会、韓国有機農産物御売会社、親環境有機食品認証協会、韓国生協研究所)で、組合員4万名(実利用者20,100名)、供給高760億ウォンとなり、それぞれ前年対比118.2%、111.8%となりました。

今回の総代会では、icoopグループの3期中期発展戦略が審議されます。3期中期発展戦略は2010年、われらの望む姿を次のように描き、そのための方針を明らかにしています。

- ・ 2010年の到達目標：組合員10万名(実利用者7万名)
事業高3千5百億ウォン(組合員供給高2千億ウォン+
ベーカリーなど事業体の事業高1千5百億ウォン)
- ・ 2010年のわれらは、
 1. 全国物流ネットワークの充実(全国どこでも生協の商品を利用できる)
 2. 食品安全生活システムの構築
(生産～食卓まで、外食・団体給食でも安心安全な食生活ができる)
 3. 親環境農業の持続発展を支援
 4. 地域に必要なコミュニティビジネスの創出と拡大

5. 消費者政策の監視と協力者となる

6. 地域社会と教育分野で分かち合いを実践することを目標にします。

なお、2006年の活動の様子については動映像に制作されて下記のウェブサイトからも見られるようにしました。(開示ボタンを押すと作動しますのでご覧下さい)

<http://www.icoop.or.kr/v2/announce/view.php?code=announce&homepage=006&page=1&number=844&keyfield=&key=&no=4&fid=4&thread=A>

【韓国女性民友会生協 <http://www.minwoocoop.or.kr>】

「第8回通常総代会」が開かれました

女性民友会生協は2月24日、ソウル女性プラザ国際会議場にて第8回通常総代会を開きました。総代会には90名の総代と、生産者、来賓など、120名余が参加して賑わいました。今回の総代会では第4期の役員選挙が行われ、5年間理事長を勤めた朴ヨンスク理事長が退任し、12名の4期理事(理事長:金ヨンスン東北民友会生協理事長)と2名の監査が新しく選出されました。2007年の事業方向は以下のように承認されました。

1. 運動の自治能力を高めるための事業: 新規組合員 1,977名組織・供給高 84億ウォン目標
 2. 食生活の基準と安全を高める・女性の健康で幸せな暮らしを支援するための Happy Zone 作り(多様な生活材の開発と共同購入、ライフステージにあう生活材の品揃えなど)
 3. 生協活動の人材を育成(生協アカデミ、手前月例フォーラム、共同体プログラム・活動の開発)
 4. 生活材の積極的広報
 5. 生協ビジョンを広く共有し、組合員の参加を高める
 6. 連帯活動(第8回アジア姉妹会議・生協法改定運動・第2回韓日田んぼの生きもの調査交流)
- 又、前半部に行われた記念式では組合員表彰と、10年間勤続した金ジャヒョン常務理事への感謝状が贈られました。

http://www.minwoocoop.or.kr/bbs/board.php?bo_table=event_act&wr_id=262

「ラララ冬休み子ども学校」を開催しました

高陽女性民友会生協は、冬休みの期間中「ラララ子ども学校」を開講し、様々な企画を子どもたちと一緒に実行しました。韓国で冬休みはクリスマスシーズンから1月末まで長いので各種の企画があちこちで開かれます。高陽女性民友会生協は、料理、木細工、森の教室を企画し、子どもたちが身の回りの自然に親しみ、家族の料理を作るプログラムを実施し、定員以上に賑わいました。この教室は夏にも開かれる予定です。

http://www.minwoocoop.or.kr/bbs/board.php?bo_table=goyang_activity&wr_id=134

【生協全国連合会 <http://www.co-op.or.kr/>】

「第20回通常総代会」が開かれました

生協全国連合会は、2月7日、ソウル女性プラザにて第20回通常総代会を開催しました。1983年「消費者協同組合中央会」が設立されて24年、社団法人生活協同組合全国連合会になってから20年となり、「自然とは相生、隣人とは協同」を挙げて活動を行ってきました。今回の総代

会では、「地域と共にする生協活動」を活動の基調にして次の3大課題を選定しました。

1. 地域社会と共にする生協の活動を展開する
2. 会員生協同士の地域連帯の強化と会員生協・全国連合会とのコミュニケーションの増進
3. 生協法及び関連制度の合理的改善と安定的インフラの構築

総代会では、このような課題を推進するために最大努力することを決議しました。

<http://www.co-op.or.kr/data/coopnews2.htm?wh=coop&sno=115>

「共生共貧」の著者槌田隆教授招聘講演会が開かれます

韓国第2の都市釜山で、日本の「使い捨て時代を考える会」の代表で「共生友貧・21世紀を生きる道」の著者槌田劭教授の講演会が企画されています。

1. 日時：3月12日
2. 主催：釜山生協団体連合（釜山YWCA生協、釜山生協、釜山ハンサルリム）

<http://www.co-op.or.kr/data/coopnews2.htm?wh=member&sno=1275>

【ハンサルリム <http://www.hansalim.or.kr>】

ハンサルリム20周年記念資料集「ハンサルリム20年・太陽と風、正直な汗の記録」を発刊

ハンサルリムは20周年記念事業としてハンサルリム20周年史記念資料集「ハンサルリム20年・太陽と風、正直な汗の記録」を出版しました。この資料集には歴史的なハンサルリム宣言を始め、20年間発行されたハンサルリムの機関誌・ニュースレターに掲載された生産者、消費者活動家、職員の文書や記録、討論会などで発表したレポートや小論文、詳細沿革及び組織と事業の推移などが網羅されています。190mm×245mm、478ページ、非売品。各地域のハンサルリム生協で閲覧できます。

目次

1. 発刊辞
2. 食卓カリム・農業カリム・生命カリム＝ハンサルリム（ハンサルリムの志向と諸政策・住所録）
3. ハンサルリムの歩み（目でみるハンサルリム・沿革）
4. ハンサルリム博物館（機関誌歴史・統計でみるハンサルリム）
5. われらはハンサルリム（米とハンサルリム運動）
6. 生産者の物語（13名の生産者）
7. 絵でみる生産者地域の物語（12地域）
8. 消費者の物語（14名の消費者）
9. 職員の物語（12名）
10. ハンサルリムの考え
11. 助け合うハンサルリム（連帯・交流事業、助け合い活動）
12. 資料（ハンサルリム宣言・定款・各部門組織の沿革、出版物・報道資料など）

<http://www.hansalim.or.kr/>

第20回総代会が開催されました

ハンサルリム生協の全国組織である（社）ハンサルリムは、2月27日大田文化芸術会館コンベンションホールにて第20回総代会を開きました。ハンサルリムは2006年17,398名が新規加入し

て全国会員 13 万 3 千名、供給高は 950 億ウォンとなり、韓国の生協陣営では一番の規模で着実に成長しています。ハンサルリムは創立 20 周年を迎えた今を運動の青年期と認識し、より一層の発展を目指し、精力的に運動を進めることを総代会で確認しました。

<http://www.hansalim.or.kr/>

【編集後記】

2006 年韓国の経済成長率は 4.8%。しかし韓国の統計庁は、この 1 年間就職経験のある人の内、通年仕事を持てた人は 2 名当たり 1 名にもならないという調査結果を発表しました。2005 年 9 月～2006 年 8 月までの 1 年間、全国 6 万世帯 16 才以上の世帯員の経済活動の変化を調査した結果、このような現状が明らかになったと統計庁は 2 月 26 日発表しました。

2005 年 9 月現在、韓国の 16 才以上の人口は 3 千 844 万 8 千名で、この 1 年間就職経験のある人は全体の 67.2%の 2 千 582 万名と集計されました。しかし、就職期間が 12 月という通年就職の状態にいた人はその内 46.0%に過ぎなく、又通年就職者の内 70.9%は月平均所得が 200 万ウォンにも至らない事が分かりました。こんな中、政府には「社会サービス向上企画団 (<http://www.service.go.kr/>)」が新設されました。社会福祉、保健医療、教育、文化芸術、環境と安全など個人及び社会全体の福祉増進と暮らしの質を高めるため、社会的に提供される社会サービスを統合的に執行・管理する部署だそうです(企画予算処所属)。このウェブサイトに接続して検索すると各政府部署が企画している同テーマの事業と求人情報が地域別に一覧で見られます。政府は今年だけでこの企画団を通じて 20 万人の雇用の創出ができると展望しています。地域の生協との接点も多いかもしれないと感じました。

さて、庶民の仕事も不安定ですと、生協商品の価格競争力がますます課題になってきます。私たち韓国生協連合会・(社)韓国生協連帯は、「庶民にも有機・親環境農産物を！」を挙げて事業を進めていますが、本当にそれが実現するためには、大変知恵を発揮しなければなりません。そこで、生産者組織と組んで加工生産メーカーの工場稼働率を高める方案、生産品目と工程を再配置する方案などいろいろ知恵を絞っています。2007 年はこのような努力が忍耐強く着実に進むことを期待します。

(文責及びお問い合わせ：韓国生協連合会 国際チーム、金亨美、chleekim@yahoo.co.kr)